

Ⅲ PI-RADS Section II, Appendix II

前立腺の正常解剖と良性疾患

上野 嘉子*1, 2 / Caroline Reinhold*2 / 高橋 哲*1 / 杉村 和朗*1

*1 神戸大学大学院医学研究科内科系講座放射線医学分野 *2 Department of Diagnostic Radiology, McGill University

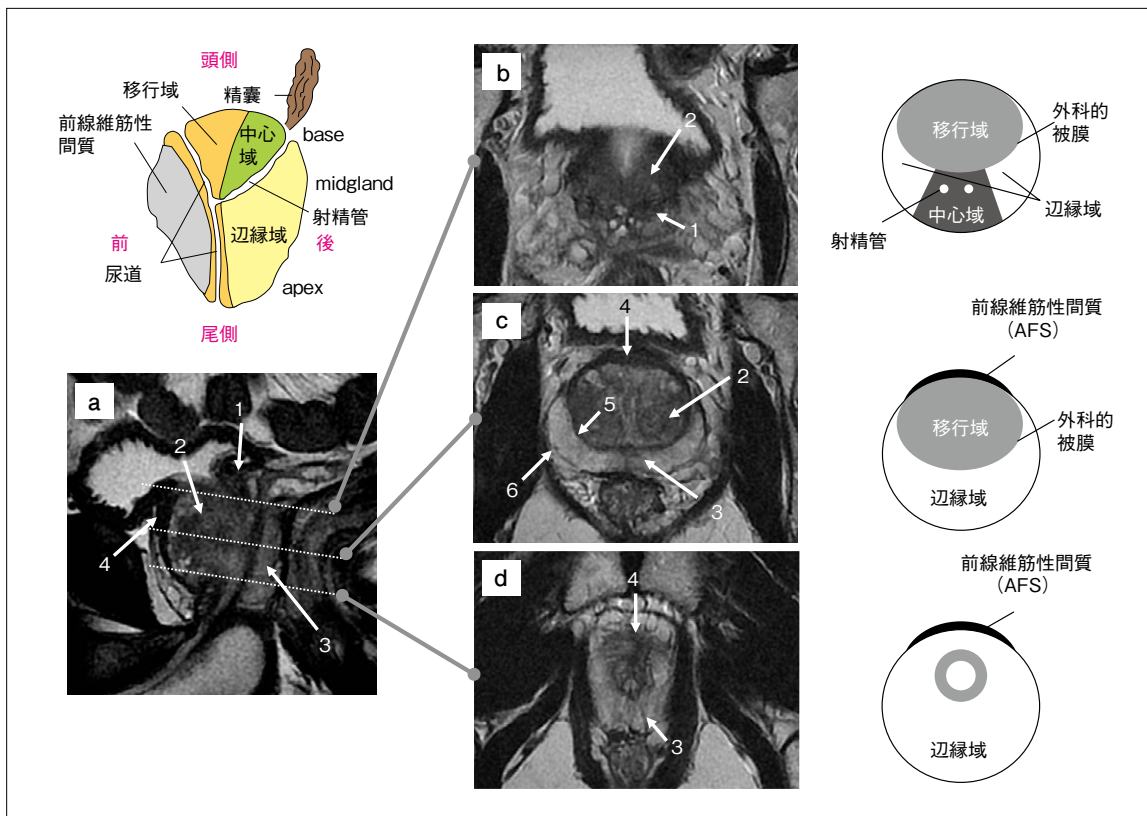
前立腺の正常構造

前立腺の構造は、頭側（膀胱側）から尾側（陰茎側）方向にかけて、底部（base）、中間部（midgland）、尖部（apex）の3つに大きく分けられる。さらに組織学的に、①腺組織を有しない前線維筋性間質（anterior fibromuscular

stroma：AFS）、②膀胱頸部から精丘にかけて尿道を囲むように存在し、若年では前立腺における腺組織の約5%を占める移行域（transitional zone：TZ）、③射精管を囲むように存在し、若年では腺組織全体の約20%を占める中心域（central zone：CZ）、④前立腺の背外側を占め、若年では腺組織全体の70～80%を有する辺縁域（peripheral zone：

PZ）に分けられる（図1）。移行域は加齢とともに増大し、前立腺肥大患者では腺組織の多くの割合を占めるようになる。前立腺癌の約70～75%は辺縁域、約20～30%は移行域から発生するが、中心域からの発生はまれである。中心域に生じる癌は、辺縁域に発生した癌からの浸潤であることが多い。その部位やT2強調像での信号から、

■図1 前立腺の正常解剖とMRI画像（T2強調像）



a：矢状断面 b～d：斜水平断面（b：底部レベル c：中間部レベル d：尖部レベル）
1. 中心域, 2. 移行域, 3. 辺縁域, 4. 前線維筋性間質, 5. 外科的被膜, 6. 前立腺被膜